

2023 年度 小委員会活動成果報告

(2024 年 2 月 9 日作成)

小委員会名	海外組積造耐震化小委員会	主 査 名：花里 利一 就任年月：2023 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (壁式構造運営委員会)	委員長名：五十田 博 (主 査 名：西田 哲也)
設 置 期 間	2023 年 4 月 ～ 2026 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>海外では巨大地震の度に、耐震的に脆弱な組積造建造物が大きな被害を受けてきた。小委員会では途上国の組積造住宅を主対象に耐震化に資する英文技術資料を作成し、壁式構造運営委員会のサイトで公開している。新委員会では途上国住宅、歴史的建造物、組積造内蔵壁に関する英文技術ガイドブックを完成させる。</p> <p>海外組積造の耐震問題に関する情報交換、シンポジウム等公開活動を継続する。海外において組積造建造物が被災した地震が発生し、本会の災害調査が行われる場合は、その調査を支援する。日本の耐震技術は国際的に先進的であり、建築学会の活動としてこの分野に貢献する。以下、各年度の計画概要を示す。</p> <p>初年度：補強技術とその効果に関する英文ガイドブック(仮称)詳細版を編集し、小委員会査読を行う。補強技術と評価指標に関する新たな研究成果等を収集・整理し、小委員会作成のデータベースに加える。</p> <p>2年度：小委員会査読を経て詳細版の原稿を作成し、運営委員会の査読を受ける。詳細版をもとに冊子版の英文原稿を作成し、小委員会査読を行い、冊子版の日本語版を作成する。データベースの拡充を図る。</p> <p>3年度：冊子版(英文、和文)の小委員会査読を経て、運営委員会査読を受ける。データベースの拡充を完成させる。詳細版を運営委員会サイトで公開する。</p> <p>4年度：冊子版原稿(英文、和文)の運営委員会査読・修正を経て、公開用の原稿を完成させる。大会 PD もしくはシンポジウムを開催し、冊子版を技術資料として刊行する。英文ガイドブック(仮称)を国際的に公表する機会をもつ。冊子版(和文)の刊行を目標に、本委員会査読を受ける。</p> <p>4年間を通じて、海外で組積造建造物の被害地震が発生した場合、災害委員会を支援する活動を行うとともに、国際的な技術協力を支援する。また、海外の組積造地震被害に関する情報収集を行い、情報を共有する。</p>	
委員構成 (委員名 (所属))	<p>委員公募の有無：無</p> <p>主査：花里利一 (神奈川大学) 幹事：黒木正幸 (大分大学)、前島彩子 (明海大学)、山口謙太郎 (九州大学) 委員：今井弘 (ものづくり大学)、遠藤洋平 (信州大学)、北茂紀 (北茂紀建築構造事務所)、真田靖士 (大阪大学)、崔琬 (静岡理工大)、中村友紀子 (千葉大学)、檜府龍雄 (国際協力機構)、松崎志津子 (都市計画・建築関連 OV の会)、箕輪親宏 ((元)防災科研)、蔡高創 (熊本大学)、多幾山法子 (東京都立大学)、カストロホワンホセ (琉球大学)</p>	
設置 WG	なし	
2023 年度予算	90,000 円	ホームページ公開の有無：有 委員会 HP アドレス：(壁式構造運営委員会 HP)

項 目	自己評価
委員会開催数	6 回 (年度内計画を含む)
刊行物	なし
講習会	なし
催し物	なし
大会研究集会	なし
対外的意見表明・パブリックコメント等	なし
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	<p>1. 英文補強技術ガイドブックの編集は遅れているが、今期の小委員会で完成・公表を目指す。活動の国際発信につとめる。</p> <p>2. 過去の海外巨大地震による組積造建造物の被害記録をレビューした。2023 年 2 月 6 日トルコ・シリア地震等による組積造建造物の被害に関する情報を収集し、共有した。</p>
委員会活動の問題点・課題	<p>1. 小委員会はオンライン開催としたが、次年度は対面開催も検討したい。</p> <p>2. 2024 年建築学会大会で PD を担当することが決まった。本小委員会の目標である補強技術に関する英文ガイドブックの編集に役立つ内容とする。(当初計画では最終年度に開催としたが、2年度目に開催することとなった)</p>